

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス LEIF旭川		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 18日 ~ 2026年 1月 10日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	43名	(回答者数) 37名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 12日 ~ 2026年 1月 21日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	公園や広い体育館でサッカー療育を行うことで、子どもたちは楽しみながら身体をめいっぱい動かすことができ、身体面だけでなく、精神面・対人面でも様々な成長を促すことができる。	多種多様なサッカーの練習メニューを行っている。 定期的にサッカー大会を行い、子どもたちのモチベーションややる気の向上を図っている。	子どもたちがより楽しめるような練習メニューを構築していく。 子どもたちそれぞれの特性や課題に合わせて的確なアドバイスができるように、支援員一人一人の知識を増やす。
2	学校休校日には、毎回イベントを行っており、子どもたちに飽きさせることないとともに、さまざまな経験してもらっている。	同じようなイベントが重ならないように、イベントの計画・立案を行っている。 公共機関体験や自然体験、製作活動、調理体験など多様なイベントを行っている。	新たなイベントを行っていけるように企画していく。 個々の課題に合わせて内容やSSTの視点などを含めて、イベント内容の充実化を図る。
3	障害特性や子どもたちそれぞれの個性を踏まえて、子どもに寄り添った支援を行っている。	朝の申し送りの際に、前日の支援の振り返りと当日の留意点について、情報共有を行っている。 充実した職員数を配置することで、子どもの様子をなるべく見落とすことなく対応し、保護者へ情報共有している。 感情イラストカードなどを用いて子どもが自分の思いや気持ちを伝えやすいようにしたり、子どもが自分で見てスケジュールなどを把握できるように環境を整えたりするなど、視覚情報の充実化を図っている。	発達支援についての研修を行う。 子ども一人一人について、職員間での情報共有を更に綿密にしていく。 保護者や関係機関との情報共有や連携を強化していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	災害時の対応について	災害に対する訓練や対応の仕方を保護者への説明が不足している。	定期的な通信で避難訓練の様子を記載したり、実際に被災した場合の対応について事前に知らせたりする。
2	怪我への対応について	怪我があった時に、簡単なアイシングなどの対応しかできていない。	怪我への対応・処置の知識を深めるとともに、怪我が発生したときの保護者への連絡等を適切かつ早急に行えるように体制を整える。
3	家族支援について	保護者に実際に事業所の様子を見ていただいたり、保護者の方が参加出来る研修会の機会が少ない。	SNSや通信で事業所の様子について発信する。 家族支援プログラムや研修会を企画する。